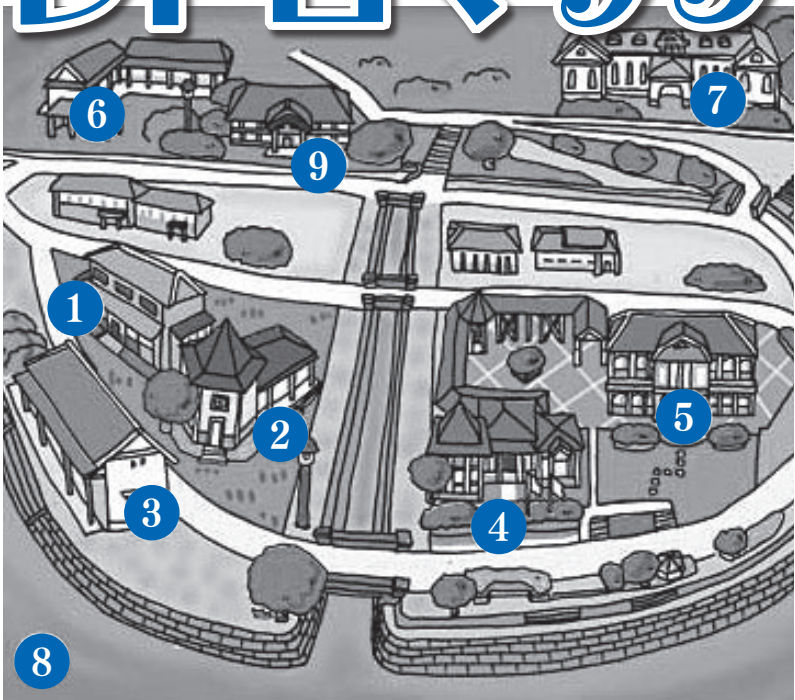


三角西港

レトロマップ



- ① 高田回漕店、② ムルドルハウス、③ 旧三角海運倉庫（三角築港記念館）、④ 龍驤館、⑤ 浦島屋、⑥ 伝統工芸館、⑦ 宇城市立九州海技学院（旧宇土郡役所）、⑧ 石積埠頭・排水路、⑨ 法の館（旧三角裁判所）

施設



ムルドルハウス

2



旧高田回漕店

1



伝統工芸館

6



九州海技学院

7



浦島屋

5



龍驤館

4



旧三角海運倉庫

3

① 旧高田回漕店（市文化財指定）

平成10年に復元され、11年に三角町の文化財となりました。現在は市指定文化財。海運業を営む高田儀丸の回漕問屋は、明治20年の開港時には建設されていました。所有していた4隻の船（正義丸、播磨丸、明淳丸、筑後丸）で荷物や乗客を扱いました。1階に6部屋、2階に6部屋、後ろに水屋があります。

② ムルドルハウス（物産館）

三角西港の設計者、ムルドルの名にちなんで名付けられた物産館です。おしゃれな館内には、地元の伝統工芸品や特産品が展示販売されています。輸入雑貨も購入できます。

③ 旧三角海運倉庫（三角築港記念館）

明治の開港時は、米倉として使用されていました。昭和62年、三角築港記念館として改装、三角町営の軽食レストランとして開業しました。平成9年に改装して、本格的レストラン「オランダカフェ」として開業。テラスでは海を目の前に食事ができ、魚介類を使ったオムライス・カレー・パスタやハンバーグなどが楽しめるレストランです。

④ 龍驤館（りゅうじょうかん）

大正7年に明治天皇の即位50周年を記念して宇土郡教育会が建てた木造平屋建ての洋館（明治天皇頌徳記念館）です。小泉八雲の紀行文『夏の日の夢』のなかで「その宿は、私にとつて極楽であり、女中達は天女のように思われた。」と記したコロンアル様式のホテル「浦島屋」はこの場所に建っていたといえます。

⑤ 浦島屋

小泉八雲が、明治26年7月22日、長崎からの帰途に立ち寄り「夏の日の夢」と題した紀行文の舞台となった旅館です。明治38年に解体され、中国の大連に運ばれましたが、平成5年、設計図を元に復元されました。1階はケーキやコーヒーなどが楽しめる喫茶コーナーのほか、三角西港築港当時の資料や写真が展示されています。2階には、築港当時の資料と小泉八雲に関する資料が展示され、いろいろなイベントの開催にも使われています。

年表

三角西港の年表

明治5年（1872）	6月に明治天皇が龍驤艦（軍艦）の船内にて三角港に仮泊
12年（1879）	オランダ人の水理工師ムルドルが来日
14年（1881）	ムルドル、三角西港を視察され天然の良港として報告
16年（1883）	三角西港と三角までの道路建設を熊本県の議会で決定
17年（1884）	工事費30万2068円96銭3月に道路建設に着手
19年（1886）	5月に築港が始まる
20年（1887）	8月に熊本から三角間の道路が完成（35・8キロ）
26年（1893）	6月に三角西港の築港が完成
28年（1895）	7月16日、郵便局が設置
32年（1899）	8月15日、開港式
38年（1905）	7月22日、小泉八雲が浦島屋に立ち寄る
昭和58年（1983）	宇土郡役所が設置される
60年（1985）	九州鉄道三角線が開通
61年（1986）	浦島屋が大連に移設され「日本式旅館浦島屋」として開業
62年（1987）	4月2日、三角西港シンポジウム開催
63年（1988）	3月11日、龍驤館の修復工事が完成
平成2年（1990）	4月29日、三角龍驤大鼓発表会
4年（1992）	7月20日、三角西港100周年記念式典開催
5年（1993）	メイネスオランダ駐日大使、
17年（2005）	三角・天草海洋リゾート指定
18年（2006）	3月13日、くまもと景観賞を受賞
19年（2007）	5月3日、ムルドルハウスが落成
	5月22日、オランダNOSTテレビ局が取材
	小泉八雲三角来遊100周年
	9月23日、浦島屋落成
	土木遺産として国の重要文化財に指定
	世界遺産の候補地として九州山口の13カ所を選定
	三角西港築港120年記念式典

スナメリに会えるかも！

スナメリって？

スナメリは、体長がだいたい160～170cm、体重は50～60kgの小さなクジラです。体の色は、銀白色をしています。頭は丸く、イルカのようなくちばしや背ビレはありません。背中の真ん中から尾ビレにかけて、高さ2～3cmの隆起があるのが特徴です。

日本沿岸からアジア地域一帯の、淡水・海水両方に住んでいます。鯨の中では最も小さく行動は活発ですが、性格は臆病で、接することは難しいとされています。体の色は淡青灰色で瞳はピンク色をしています。

生息数は不明ですが、現在はかなり少なくなっているようです。原因は海の汚染や船舶による事故、スナメリの好む浅海域の減少といわれています。

日本においては、シロナガスクジラ、ホッキョククジラとともに、水産資源保護法に基づいて保護されています。

三角西港では、岸壁からスナメリを見ることが出来ます。上げ潮時や夕刻時に多く見られるようです。運がいいときは見えるかも！

